

はぼまい 歯舞地区マリンビジョンニュース

Vol.39
2011.12



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取り組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

「第7回ほっかいどう海鮮王国フェスティバル」に出展

11月10日(木)～16日(水)の7日間、さっぽろ東急百貨店9階催事場で「第7回ほっかいどう海鮮王国フェスティバル」が開催され、歯舞漁協が10日から13日までの4日間出展しました。この取り組みは、歯舞地区マリンビジョン協議会のPR事業の一環として平成19年から続け、今年で5年目となります。今年は、信用部三浦係長と漁業振興部石黒職員が参加しました。

販売品目は、「生干しコマイ」をメイン商品とし、真だこ、煮エビ、開きめんめ、煮ツブ、カレイ類、こまいっ子の他、各種昆布製品など合計22品目を販売しました。

「生干しコマイ」は、販売2日目にHTBテレビ番組「イチオシ!」で取り上げられたこともあり、翌3日目はテレビを見たお客さんが続々と押し寄せてコマイを買い求め、夕方まで客足が途切れることがありませんでした。

また、「煮エビ」は年末年始にかけての食材や贈答用として人気が高く、即完売してしまい、「もうエビないの?」というお客さんの声が多くありました。

昆布製品については、「はぼまい昆布しょうゆ」を使用しているというお客さんの声をたくさん聞くことができ、札幌でも昆布しょうゆの知名度が高いことがうかがえました。「早煮昆布」を使用した結び昆布の試食も好評で、作り方や味付けの説明をすると「こんなに簡単に作れるんだ」と購入していくお客さんもいました。

今年の傾向として、例年出店している参加店の方によると、例年と比べ来客数が少なく、客足も継続的ではなかった、さらにお客さんの財布の紐も固いということでした。実際、日によって来客数に大きな差があり、販売に苦戦することもありましたが、多くのお客さんとの接客の中で消費者の生の声を聞くことができ、良い経験となりました。

今後もPR販売において、宣伝・販売方法やリピーターを増やす工夫などを検討し、広く歯舞ブランドが浸透するよう取り組んでいきます。



<札幌圏のお客さんに歯舞をPRしました>

水産庁が推進する「平成 23 年度活力ある漁村づくりモデル育成事業」のモデル地区中間報告会及び地域リーダー研修会が、11 月 10 日（木）～11 日（金）、東京都内で開催されました。歯舞地区マリンビジョン協議会からは、歯舞漁協森山参事と福井総務部長が出席しました。

中間報告会では、当マリンビジョン協議会の取り組みについて報告し、有識者委員（はこだて未来大学名誉教授・長野章氏、東京海洋大学教授・婁小波氏、高知大学教授・受田浩之氏）より講評と助言を受けました。

委員からは、6次産業化や歯舞ブランド商品の確立へ向けたアドバイスや、「企画→実行→実現」してきた取り組みをいかに「継続」させるかが今後の課題である、といった意見をいただきました。

現在の取り組みを継続していくためには、今後もマリンビジョン協議会や組合がリーダーシップを発揮して活動を続けていくことと、それを次へと繋げる次代のリーダーを育成することが必要です。そのためには、次の世代に組みの目的や意義をしっかりと伝えていくことが重要であり、それが活力ある漁村の姿につながると再認識しました。



<中間報告会の様子>

新宿駅西口広場で物産展に参加

根室市と市内4漁協でつくる根室おさかな普及委員会が、12月1日（木）～3日（土）、東京都の新宿駅西口広場イベントコーナーで行われた北方領土返還要求街頭啓発事業の会場で、海産物や水産加工品の物産展を開催しました。

この物産展は北隣協の啓発事業に合わせて3年前から実施しているものです。会場となった同コーナーは、新宿駅の中でも特に人通りの多い場所で、連日多くのお客さんでにぎわい、用意した商品は3日間でほぼ完売しました。

歯舞漁協からは漁業振興部田村課長代理と市場部橋本職員が参加し、はばまい昆布しょうゆや早煮昆布などの各種昆布製品を販売しました。

来場したお客さんの中にはリピーターや連日足を運んでくれた人もいて、3年目の開催とあって首都圏での認知度も徐々に上がってきたことが実感できました。



編集・発行・お問い合わせ

編集・発行

歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

お問い合わせ

事務局 担当：根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

